

ANA機体整備工場見学

横浜市 中島幸雄(寺町二丁目出身)

二〇一〇年七月五日(月) Jネットの勉強会で全日本空輸(株)『ANA一九五五年十二月二十七日創立、従業員約三万三千人』の機体整備工場の見学が行われた。

当日、日中は薄曇で、夕方には雨が降り出しそうな厚い雲に覆われた天気だった。

十二時半東京モノレール「新整備場駅」に集合した。総勢十一名。

ANA機体メンテナンスセンターの受付で登録の後、健脚の者のみで、建設中だった羽田空港D滑走路の見学に出かけた。センターから空港内の案内表示に従い、約一時間かかってD滑走路展望棟に着いた。途中暑く汗が大変だった。屋上の展望台で海上に建設中のD滑走路を二十分程度見学した。展望台の横のA滑走

B 機体整備の種類

HMV「四〜五年毎」機体の長期使用に伴って発生する各種作業(機体構造の点検、防蝕作業など)を行う。

C 整備(三〜六〇〇時間毎)

約一週間飛行機の翼をドックで休め、多くのパネルを取り外して本格的に行われる整備

A 整備(三七五〜六〇〇時間毎)

規定時間飛行した飛行機が最終便で到着した後、翌朝の初便でフライトするまでの間に一晩かけて整備。

運行整備「毎日」

空港に到着した飛行機を次のフライトまでの間に点検と整備を行う

C 機体整備の内容

機体整備・マニュアルによって定められた箇所を詳細に点検。必要あればタイヤ、フラップなどの交換、修理を行う。

客室整備・座席、トイレ、荷物棚などを全て取り外し点検、整備を行う。

整備品整備・コックピットなどにある電子機器、無線機器などの整備品の点検、修理を行う。

エンジン整備・ボアスコープ「胃カメラの様な小型カメラ」でエンジンの内部を点検する。必要であればエンジンその物を交換する。

D 整備士

空港に到着した飛行機を次のフライトまでの間に点検、整備、運航整備を行う。整備に許される時間は大型機で僅か一時間。その間に整備士はパイロット、キャビンアテンダントと機体の不具合の確認を行う。

整備士は夫々専用の工具箱を持ち、総ての工具には自分の名前が彫られている。工具が一個でも不足した場合には、見つかるまで探す。

以上が機体整備の概要であるが、見学コースには取り外されたタイヤ、座席、ジェットエンジン、内装品のない機体などが整然と置かれ、行き交う整備士たちの姿は真剣そのものだった。

ANAでは現在二二機の飛行機を保有し、世界の空を飛んでいる。

見学を終えて、私がメーカーに在っていた頃、ANA、JALに整備品整備用に四〇〇ヘルツ定周波電源装置を設計して共同作業をした事、当時の防衛庁空幕との技術応用でJALと飛行機の衝突防止装置のテスト飛行でデーターを収集した事など思い出して懐かしく思った。

A ドックイン
トリーニングカーに牽引された飛行機が格納庫にドックインする。整備作業が安全に行えるように、整備用スタンドがセットされる。

整備工場は二十四時間、三六五日、グループで約六〇〇名の整備士がシフト制勤務で空の安全を支えている。見学時説明された概要を次に記する。

トされる。

最後にANAの整備中の機体の前で記念写真を撮り、十六時半頃メンテナンスセンターに戻った。
 帰り道、反省会と称して酒席の会に全員で参加。



遠くに見えるのがD滑走路



右端 中島幸雄さん

